

悠紀齋田

明治天皇は1912（明治45）年7月30日、崩御された。明治天皇は61歳で崩御され、皇太子嘉仁（よしひと）親王が天皇の位を受け継がれた。新しい元号は「大正」、「天興」、「興化」の中から「大正」が択ばれ、1912（明治45）年7月30日が「大正元年」となった。

1915（大正4）年、大正天皇即位の大嘗祭を行うにあたり、儀式に用いる新米を収穫するために京都より東日本を悠紀（ゆき）、西日本を主基（すき）として2つの齋田を選定した。これは1914（大正3）年2月5日、悠紀・主基の神殿で行われた。火炎の上に悠紀・主基の亀甲板2枚をかざし、甲面に生じた亀裂が悠紀は愛知県、主基は香川県を指したことから決定されたという伝説的な記述が残っている。

大嘗祭（だいじょうさい）とは、天皇が即位の礼の後、初めて行う新嘗祭。大嘗祭は本来、「おおいえのみつり」「おいなめのまつり」「おおいべのみつり」と読んだが、現在は「だいじょうさい」と音読みすることが多い。新嘗祭（にいなめさい）は毎年11月に、天皇が行う収穫祭で、その年の新穀を天皇が神に捧げ、天皇自らも食す祭儀であるが、当初は「大嘗祭」とはこの新嘗祭の別名であった。後に、即位後初めての新嘗祭を1世1度行われる祭として、大規模に執り行うこととなり、律令ではこれを「踐祚大嘗祭」とよび、通常の大嘗祭（＝新嘗祭）と区別したものである。

愛知県は悠紀齋田に岡崎市中島町（旧碧海郡六ツ美村大字中島字丸の内）で早川定之助が所有する田を勅定し、香川県は主基齋田に綾川町山田上（旧綾歌郡山田村）の田を勅定した。天皇1代に1度限りの大祭である大嘗祭の齋田に選ばれたことはとても名誉なことであり、六ツ美村民はもとより、愛知県民挙げての協賛儀式が進められた。齋田地には早速、周囲に齋竹（忌竹（いみだけ）：不浄災難除けの葉付きの青竹）を立て、しめ縄が張られ標柱も建てられた。また、齋田事務所も建てられ、高橋用水も整備された。

本来は1914（大正3）年に大正天皇即位の大嘗祭を行う予定であったが、1914（大正3）年4月11日に昭憲皇太后（明治天皇の皇后）が崩御されたことから、大嘗祭は諒闇（りょうあん：天使が父母の死で喪に服する期間）中は行わないことになった。翌、1915（大正4）年4月19日に、即位の礼は11月10日に、大嘗祭は11月14日と決められた。

1915（大正4）年4月には悠紀齋田の奉耕者107名（男：87名、女：20名）が資産・教育・素行・技芸・経歴・健康等の観点から選定された。奉耕者以外にも、齋田委員会と悠紀齋田奉賛会の2つの組織ができ、齋田全体の維持・運営などについての事務的業務がおこなわれた。その中で齋田儀式は進められていった。まず、播種式が1915（大正4）年4月14日に行われ、奉耕者（21名）が規定された服を着て早川定之助らと八幡社でお祓いを受け、齋田地で播種祭を行った後、種まきをした。4月26日には祓式（はらいしき）が齋田地で行われ、来賓は道家農務局長はじめ100余人、生徒1000人および参観者3500人が集まった。5月には、熱田神宮宮司の岡部譲、齋田地村長の早川龍介および安城農林学校長の山崎延吉による悠紀齋田御田植唄が発表された。

6月5日はお田植式が行われ、齋主は熱田神宮宮司の岡部譲が当たり、県内各郡司の神職30人が奉仕の任に当たった。この日の来賓は、岐阜県知事および新渡戸稲造夫妻など700名に及んだ。参観者は、7万人余の人々が集まり、大変な賑わいだったそうである。

9月20日に抜穂（ぬきぼ）式（稲刈り）が行われ、その後、脱穀、粃の乾燥作業が進められた。そして、粃すり精米作業が行われた。10月15日朝、保管されていた5個の唐櫃に納められた供納米は愛知県知事の点検を受け、八幡社を京都御所に向けて出発しその日の夕方に安城役場に到着した。翌16日朝、供納米は安城駅から京都御所に向けて出発し、午後には、京都御所で「齋庫納穀の式」が行われ、大嘗祭への準備が完了した。

1916（大正5）年3月に愛知県が、松井茂知事の撰文を「悠紀齋田跡碑」として齋田地跡に建立した。1919（大正8）年には悠紀齋田献穀の光栄を長く記念するため、下青野本郷の村役場前に「齋田記念館」が建設された。その後、老朽化と役場の移転により「齋田記念館」は解体され、貴重な民俗資料は、1987（昭和62）年に建設された「六ツ美民俗資料館」（六ツ美支所隣）に移管さ

れた。現在では、2012（平成24）年建設された地域交流センター「悠紀の里」に移管された。同じ1916（大正5）年に北郷久政勅使が参加した「修祓の式」および「抜穂の式」を記念して、北郷久政勅使の筆跡を刻んだ碑が建立された。これは現在も美矢井橋の北側の堤防に建っている。

1924（大正13）年に悠紀齋田奉耕10周年記念として記念碑が建立された。これは早川龍介の撰文で悠紀齋田の選定から供納までが刻まれている。現在は「悠紀の里」にある。1929（昭和4）年に11月25日にこの地に高松宮殿下が訪問され、その時に「お田植え踊り」が八幡社で披露されている。

六ツ美地区においては、齋田地が保存され、お田植え祭りは齋田奉耕者やその子孫などの関係者、村民有志の努力で毎年6月上旬に脈々と伝えられてきた。しかし、第二次世界大戦から戦後にかけて一時中断し、その期間は現在の六ツ美南部小学校教員の杉山信太郎が学校実習田として活用し保存・管理した。1962（昭和37）年に六ツ美町は岡崎市と合併した後、長年継続してきた祭事の意義や歴史的伝統行事の伝承の重要性から、1966（昭和41）年3月10日に「お田植えまつり」が岡崎市無形文化財に指定された。以後、六ツ美地区の住民の理解と努力で、悠紀齋田保存会主催による「お田植えまつり」の記念行事が再開された。

その中で、主基齋田との交流は、1989（平成元）年の夏、悠紀齋田保存会の代表が主基齋田を見学したところから始まり、1995（平成7）年の悠紀齋田80周年記念式典には、主基齋田の地の平井香川県知事、松岡綾上町町長、仲西主基齋田保存会会長および両保存会関係者が多数出席した。

2015（平成27）年6月7日の悠紀齋田100周年記念式典には秋篠宮殿下・妃殿下を始めとして多くの人の参加により盛大に執り行われた。

大正4年の大嘗祭悠紀齋田は次のような日程で行われた。

大正3年3月7日	悠紀齋田示達式（碧海郡六ツ美村下中島字上丸ノ内の4反歩）
大正3年4月11日	「昭憲皇太后」が崩御され大嘗祭は1年延期となる。
大正4年4月22日	大嘗祭悠紀齋田祓式（悠紀齋田）
大正4年4月23日	播種式（悠紀齋田）
大正4年6月5日	悠紀齋田御田植祭（悠紀齋田）
大正4年8月15日	抜穂式齋場地鎮祭（悠紀齋田齋場予定地）
大正4年9月19日	抜穂前一日大祓の儀（矢作川大聖寺磧）
大正4年9月20日	悠紀齋田抜穂式（悠紀齋田齋場）
大正4年10月15日	供納米点検式（八幡社）
大正4年10月16日	齋田米供納式（京都御所）
大正4年11月14日	大嘗祭（大嘗宮：仙洞御所）

大嘗祭悠紀齋田の大正5年以降の行事（悠紀齋田奉耕者や有志によりお田植え実施）

大正14年6月	悠紀齋田10周年記念お田植祭（記念植樹：オガタマノキ）
昭和4年11月25日	高松宮殿下御視察（悠紀齋田、農業補修学校）
戦時中	六ツ美南部小学校の先生や児童により実習田として継続
戦後	悠紀齋田関係者の有志の方で、お田植まつりを継続
昭和40年6月6日	悠紀齋田50周年記念お田植祭
昭和41年3月10日	大嘗祭悠紀齋田が岡崎市無形民俗文化財に指定
昭和47年4月	六ツ美地区総代会が中心となり保存会を設立し、体質強化を図る
平成7年6月4日	悠紀齋田80周年記念お田植まつりを実施（記念植樹：オガタマノキ） 主基齋田保存会と交流調印式執り行う（以降相互の交流開始）
平成17年5月28日	悠紀齋田90周年として愛・地球博愛知万博でお田植えまつりを披露
平成20年2月17日	愛知県民俗芸能大会でお田植えまつりを披露
平成18年～26年	皇族のご来駕要請の宮内庁訪問 第1回～第6回（岡崎市長・愛知県議会議員・悠紀齋田保存会員）
平成24年4月26日	六ツ美悠紀齋田100周年記念事業実行委員会発足
平成26年6月1日	六ツ美悠紀齋田99周年お田植まつり
平成27年6月7日	六ツ美悠紀齋田100周年お田植まつり

悠紀齋田は岡崎観光文化百選に選定されている。岡崎観光文化百選は1982（昭和57）年に選定され、その後2011年に見直しが行われ「岡崎観光きらり百選」として113件が選定されている。悠紀齋田は岡崎観光文化百選に選定され、次のように、記載されている。

岡崎観光文化百選（岡崎観光きらり百選 No80、悠紀齋田お田植えまつり）
悠紀齋田お田植えまつり
大嘗祭に用いる米を作る田を齋田と呼びます。大正3年、西日本（主基）の齋田に香川県の山田村が、東日本（悠紀）の齋田に碧海郡の六ツ美村が選ばれました。
現在も、例年6月に、昔さながらの装束や農具を使い、お田植えまつりが行われます。

本項は以下の資料を引用している。

[大嘗祭 悠紀齋田]

筆者：野々山 克彦
監修：野村 弘、都築 末二、山崎 鉦司、越山 義之
発行日：2014（平成26）年4月1日
印刷所：永田印刷所

[大嘗祭 六ツ美悠紀齋田100周年記念事業記念誌]

編集・発行：六ツ美悠紀齋田100周年記念事業実行委員会記念誌編集委員
発行日：2016（平成28）年2月25日
印刷所：大日印刷株式会社

[六ツ美村誌]

編者 六ツ美村是調査会
発行 六ツ美村是調査会
発行日 1926（大正15）年12月1日
発行所 日新堂書店
印刷所 活版印刷所

[六ツ美風土記]

編者 岡崎市立六ツ美中部小学校父母教師会
監修 太田 満也
発行 岡崎市立六ツ美中部小学校父母教師会
発行日 1975（昭和50）年3月24日
印刷所 あいち印刷株式会社



六ツ美民族資料館



悠紀齋田大正時代1



悠紀齋田大正時代2



悠紀齋田大正時代3



悠紀齋田大正時代4



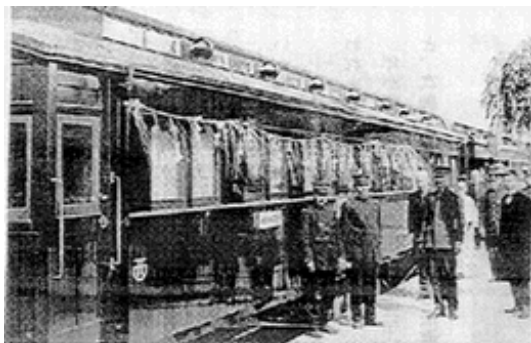
悠紀齋田大正時代5



悠紀齋田大正時代6



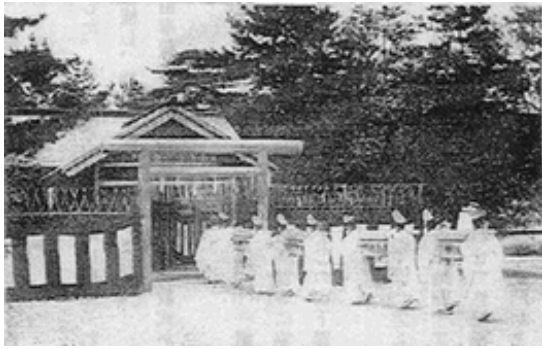
悠紀齋田大正時代7



悠紀齋田大正時代8



悠紀齋田大正時代9



悠紀斎田大正時代10



悠紀斎田記念館



悠紀斎田と高橋用水



修祓の地記念碑 20150719



悠紀の里記念碑郡 20150731



斎田地の記念碑
1916(大正5)年
20150731



悠紀斎田 20150731



悠紀斎田 20150731

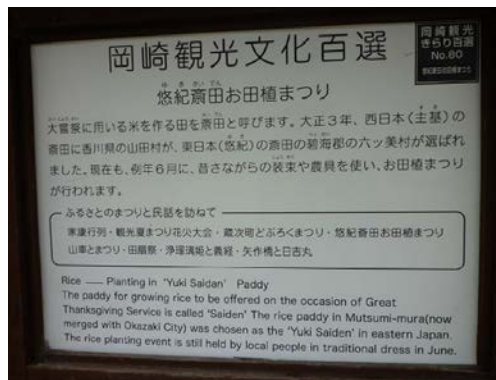


齋田地の記念碑
10周年記念
1916(大正5)年
20150731



齋田地の記念碑
大嘗祭悠紀地方
稻春歌
2015(平成27)年
20150731

齋田地の記念碑
大嘗祭悠紀齋田
御田植唄
2013(平成25)年
20150731



岡崎観光文化百選 20170330



お田植え 2008 06



悠紀齋田お田植え2014



悠紀齋田お田植え2015